

三位一体の主日 A年

神のことばを味わい、祈り、生きる

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された」(ヨハネ 3・16)



1200年頃に制作されたデンマークのインゲボルグ詩編集の挿絵にちなんだ現代のイコンです。御父は、磔刑されたキリストの十字架を手に持っています。聖霊の象徴である鳩は御父御子のお顔の間に画かれています。

1年間の典礼の流れをとおして、主イエス・キリストの誕生、洗礼、福音宣教の活動、最後の晩餐(ばんさん)、十字架の死、復活、昇天、聖霊降臨の具体的な救いの出来事を思い起して主日のミサに与ります。ときに、出来事よりは、神の神秘そのものにささげられている主日があります。三位一体の主日はその一つです。「みことばを味わい、祈り、生きる」勧めを読むにあたって、ひとまず、ゆっくりと、父と子と聖霊の栄光を思い起して、数回、自分の身に十字のしるしを切りましょう。

第1朗読 出エジプト記 (出エジプト記 34・4b～6、8～9)

味わう

* 頑なな民を約束の地へ導くために新たな力をいただきたいモーセが、「どうか、あなたの栄光をお示ください」と神に願いました。「あなたはわたしの顔を見ることはできない。あなたの前に主という名を宣言する」(出エジプト記 33・18～19) とお答えになった「主は、モーセと共にそこに立ち、主のみ名を宣言された。主は彼の前を通り過ぎて、宣言された。『主、主、憐れみ深く恵みに富む神、忍耐強く、慈しみとまことに満ちた者』」。

* 以上のことばは、旧約聖書の一つの頂点です。神ご自身がご自分の名、すなわち、人間と親しい交わりを、もつように、ご自分の存在そのものを示してくださいました。計り知れないみことばです。神は、「エジプトにいるわたしの民の苦しみをつぶさに見、追い使う者のゆえに叫ぶ彼らの叫び声を聞き、その痛みを知って、彼らを解放して下さった(出エジプト記 3・7～10) だけではなく、ご自身の神秘を垣間見させてくださいました。

* 非常に驚くべき、驚嘆すべきすばらしいことばです。

- + あわれみ ⇒ ご自分の子を忘れることができないお母さんの腸(はらわた)からの愛
- + 恵みに富む神 ⇒ 助けを求める人の方に寄り沿う神
- + 忍耐強い ⇒ 怒りっぽい神ではなく、あわれみ深い神
- + いつくしみ ⇒ 愛し合う者の間にある信頼関係、忠実さ
- + まことに満ちた者 ⇒ 確かさ

祈る

* モーセに倣ってわたしたちもひざまずき、ひれ伏して、民の苦しみに同情する神だけではなく、愛に満ちた神に心を開くようにします。

* 誰でも、神に対して生まれた時からの両親との人間関係の影響を受け、無意識のうちに自分の中に偽りの神のイメージ作ってしまいます。間違ったイメージから解放されるよう祈ります。

生きる

* 生活において、「確かにかたくなな民です」という原文は「うなじが硬い」と訳せます。神の掟を軛にたとえて、それを重く感じる民になっていました。「わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽い」(マタイ 11・28～30) と励ましてくださる主イエスの掟に従って生きられるように。

* 石の心ではなく、肉の心をもてるように。

答唱詩編 (ダニエル補遺・アザルヤ 29～33)

答唱詩編に「あなたの栄光の聖なる名に賛美」、「あなたの栄光、聖なる神殿の中であなたに賛美」と、2回神の栄光に触れています。「栄光」ということばの本来の意味は「重み」です。そこから威厳、卓越性を表すようになりました。しかし、神の栄光とは、弱い人間とともにいてくださる神の輝き、驚くべき存在そのものです。「主を畏れる人に救いは近く、栄光はわたしたちの地にとどまるでしょう」(詩編 85・10)

典礼において「神の栄光」という表現が使われるとき、第1朗読のことばを思い出せばよいと思います。「憐れみ深く恵みに富む神、忍耐強く、慈しみとまことに満ちた」神の「重み」に拠り所を見つけましょう。人間として、愛において全能の神の前に、ひれ伏して、「あなたの聖なる名に賛美。その名は代々に、あがめられる。あなたの栄光、あなたに賛美。」と「反芻(はんすう)」して、祈ってみましょう。

「賛美」ということば、この答唱詩編に6回ほどでてきます。それだけに、わたしたちの祈りで「賛美」することを忘れるはずがありません。ちなみに、「アレルヤ」は「ヤ=神に、アレル=賛美を」という意味で歌います。すべてうまく行くときに神を賛美するだけではありません。「どのようなときもくコロナウイルスのときも

>、わたしは主をたたえ、わたしの口は絶えることなく賛美を歌う」(詩編 34・2)、「絶えることなくあなたをたたえ世々限りなく御名を賛美します。大なる主、限りなく賛美される主、大きな御業は究めることもできません」(詩編 145・2～3)。

第2朗読 使徒パウロのコリントの教会へ手紙 (二コリント 13・11～13)

味わう

* ミサの始めに、立って、入祭の歌をとおして復活されたキリストを迎えて、十字のしるしをするとともに、「父と子と聖霊のみ名によって」をゆっくり唱えながら、「三位一体」への信仰を新たにします。司式者は、「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが皆さんとともに」とあいさつし、会衆は、「また司祭とともに」と答えます。このあいさつのことばは、第2朗読の終わりにあることばです。日常生活で交わすありふれたあいさつではなく、三位一体の神の現存を示す大切なあいさつです。神の愛に包まれていること、その愛に心を開こうとすることを思い起こします。

* ミサの間、奉献文の終わりに、「キリストによって、キリストとともに、キリストのうちに、聖霊の交わりの中で、全能の神、父であるあなたに、すべての誉れと栄光は、世々に至るまで」という願いのことばに、心から「アーメン」と声高らかに賛同します。

* 主イエス・キリストの“恵み”、神の“愛”、聖霊の“交わり”は同じものです。パウロの書簡の中で、ときおり、“恵み”は神に(一コリント 3・10)、“愛”は聖霊に(ガラテヤ 5・22)、“交わり”は主イエス・キリストに(一コリント 1・9)付されています。三位一体のうちに、恵み、愛、交わりは共有されていて、いつも、与え尽くされています。

祈る

* 祈るときに、誰に対してあいさつのことばを思い浮かべるでしょうか。父なる神に、主イエス・キリストに、聖霊に……。主イエス・キリストに対する祈りは多いと思いますが、父なる神と聖霊に対する祈りを意識して多くするように。

生きる

* 三位一体の恵み、愛、交わりを広くなった心でいただき、「信じた人々の群れは心も思いも一つにし、一人として持ち物を自分のものだと言う者はなく、すべてを共有していた」(使徒言行録 4・32)という、初代教会の生き方に倣って、わたしたちも頂いたものを分け与えて生きることができますように。

* 「兄弟たち、喜びなさい。完全な者になりなさい。励まし合いなさい。思いを一つにしなさい。平和を保ちなさい」というパウロの励ましのことばをとおして、毎日の生き方を反省してみます。

* その生き方の原動力は、三位一体です。「神から招かれたのですから、その招きにふさわしく歩み、一切高ぶることなく、柔和で、寛容の心を持ちなさい。愛をもって互いに忍耐し、平和のきずなで結ばれて、霊による一致を保つように努めなさい。体は一つ、霊は一つです。それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれているのと同じです。主は一人、信仰は一つ、洗礼は一つ、すべてのものの父である神は唯一であって、すべてのものの上であり、すべてのものを通して働き、すべてのものの中におられます」(エフェソ 4・1～6)。

* 「そうすれば、愛と平和の神があなたがたと共にいてくださいます」

ヨハネによる福音 (ヨハネ 3・16～18)

味わう

* 福音書の中、心に一番響くことばを一つ選ぶようにと言われたら、おそらく、たくさんの人は、「神は、そ

の独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」を選ぶでしょう。このことばは、福音全体、救い全体を一言でまとめることばです。

* 「神は、その独り子をお与えになったほどに世を愛された」。このことばは、御独り子を罪と争いが絶えない世界に送り、その中でゆるしを与える、十字架までの愛を示すことばです。そして、神の愛を語り、あかしし、実現していくイエスの使命をまとめることばです。

* 「独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」ということば、神の愛を示してくださった主イエスへの抽象的な信仰ではなく、主イエスを**信じる**ようにわたしたちを促すことばです（ヨハネ 5・24、6・47、11・26～27）。

* 「信じない者」については、「聖書と典礼」の注にあるように、「イエスの生涯を通して示された神の愛を受け入れようとしない人が、救いへの道を自分で閉ざしてしまうということを意味してい」ます。信じない人とは、言うまでもなく、三位一体の神を信じる素晴らしさについて聞いたことが無い大部分の日本人のことではありません。

祈る

* 「三位一体について学ぶことのできる最良の教科書が、典礼の祈りである」ということを体験するために、「聖書と典礼」の集会祈願、共同祈願の結びの祈り、奉納祈願、拝領祈願を祈ってみます。

* 信じる恵みをくださった神を賛美し、感謝します。

* 「ああ、物分かりが悪く、心が鈍く預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち」であるわたしたちも、心から神のゆるしを請い願います（ルカ 24・25）。

* 信じることによって、愛の行いを実践できますように願います。

生きる

* 毎日の生活の中で

- ・ 三位一体の栄光をたたえて生きるように。
- ・ 救いの喜び、力強くあかしすることができますように。
- ・ キリストに仕えるわたしたちが、神が喜ばれる生き方を送ることができますように。

* 神の愛を信じる人が増えるように働く決心を新たにします。